

解放後における韓国知識人層の植民地支配への 認識と関係史構成の変化

金 泰雄（ソウル大学）

原文は韓国語 翻訳：尹 在彦

1. 序言
2. 脱植民言説の登場と歴史問題の再構成:1945~1948
3. 「中共」言説と二分主義の登場 :1949~1964
4. 韓日関係の新たな模索と韓国史の体系化問題:1965~1981
5. 韓日間の歴史的葛藤と民主化運動の連鎖: 1982~2001
6. 韓国の政治的民主化の道程と「東アジア史」の誕生:2002~現在
7. 結語

1. 序言

解放後から現在まで韓日関係はローラーコースター（roller coaster）のように極端と極端の間を揺れているように見える。しかし韓国社会が脱植民化と冷戦秩序を経て、分断と戦争、産業化、民主化、南北関係の変化などによって日本社会とは異なり急激に変動したため、このようなローラーコースターは予見されたものかもしれない。それは国内政治と国際外交が決して分離できないためである。そして何より韓日関係に潜んでいた暗い過去の影に対する見直しが韓日両国学者たちの資料の発掘と整理から本格化したためである。

ところが両国関係のこのようなローラーコースターは、自国内の歴史叙述の構成及び韓国史・東アジア史の教育に影響を及ぼした。脱植民地を眺める時代状況と支配層の見方、そして識者層の韓日関係認識などが国内外の当面課題と絡み合い、決して一貫した方向へは進まなかったためである。特に韓国の政界は日本と同様に、この問題を学界と教育界に任せて長期的かつ持続的に扱うよりは、直接介入して教育現場を混乱に追い込むこともあった。

本発表は韓国政局の変動と脱植民地化の課題が相互連動する中で起きる歴史叙述の変化に焦点を当て、叙事の再構成とその意味を追った。特に歴史教科書とこれを裏付ける教育課程の変化に重点を置いた。それはこれらの歴史教科書が歴史叙事の構成を内蔵し、日常の中で最も具体的に具現しているためである。

2. 脱植民言説と歴史問題の再構成:1945~1948

1945年8月15日、韓半島は日帝から解放されたことで、新国家を建設し、自らの文化を再建

して奪われた歴史を回復することができるようになった。いわゆる脱植民化の可能性を切り開くことになった。大多数の識者層は、新国家建設に貢献するために学術・教育運動に積極的に参加した。特に、日本帝国時代の文化と歴史に対する清算が非常に重要だった。それは脱植民のための歴史叙事の再構成であり、未来に進むための踏み台であった¹。そこで歴史叙事は民族的受難及び侵略的歴史の清算に焦点を当て、単一民族国家の構想と、被圧迫民族の連帯に基づく倫理的アジアへの展望でもあった²。しかし、歴史叙事は虚構的な思想に基づいた文学とは異なり、あくまでも事実に基づいて構成することに重点を置いた。

歴史叙事のこのような構成と再生産は学界よりは教育界で先んじて行われた。なぜなら、新国家建設の文化建設と集団記憶の再構成は、学問的成果に先立って国民教育が優先されなければならなかったためである。このため日本語と日本史に付随した韓国語と韓国史の分離・独立が急務であった。朝鮮語学会と震檀学会がそれぞれ1945年12月と1946年5月、『初等国語教本』と『中等国史教本』を刊行した。後者の凡例からも分かるように「我が民族文化・国家社会の変遷発展の大要をできるだけ簡明に叙述することに努めた」。そして「国史学習の意義」を「我が民族及び文化の伝統と発展に対する認識を深め、民族性の本質を体得して健全な国民精神と国民的徳道及び正しい精神を培う」と規定した。すなわち、歴史教科書に潜んでいる叙事は民族国家建設という時代的課題と密接に関連していた。

既存の日本史教科書と比較すると<表1>のようになる。

<表1> 『国史教本』(1946)と『中等歴史』(1944)

国史教本 (1946)	中等歴史 2 (1944)
第1編 上古 (太古、三国時代)	第1編 太古 (天照大神から大化改新まで)
第2編 中古 (新羅統一期～高麗)	第2編 古代 (大化改新から平安期まで)
第3編 近世 (李氏朝鮮)	第3編 中世 (鎌倉幕府から江戸幕府以前まで)

¹ 歴史叙事は文学や神話と違って、1次事件は虚構ではなく実際の事件を意味する。ただし、歴史叙事は文学が開発したプロットの類型になっており、一つの文化が収合した過去の出来事に形態を与え、2次の意味の類型へ変換させる。これに関してはDonald E. Polkinghorne, 강현석ほか共訳, 『내러티브, 인문과학을 만나다』, 학지사, 2009, 137~138頁; 梁豪煥, 『歴史教育의 立論과 構想』, 책과함께, 2012, 193~207頁参照。

² 하신애, 「해방기 역사서상의 탈/식민성과 新生 아시아의 상상—金東仁을 중심으로」, 『동아시아문화연구』 81, 2020.

第4編 最近(国期 4243～4278年、西暦 1910～1945年)	第4編 近世(江戸幕府から明治維新以前まで)
	第5編 現代(明治維新から国際連盟脱退まで)

主体は韓国人の歴史に書き換えたが、時期区分と内容構成は『国史教本』と『中等歴史』が大同小異である。それは韓国史に対する研究が本格化していない中で、日本史の枠組みをそのまま持ち込んだためである。

一方、東・西洋史を含んだ1944年度版「中等歴史1」は<表2>の通りである。

<表2> 『中等歴史2』(1944)

序説:皇国と東亜及び世界

前編	後編
1. 古代のアジア	1. 上古時代の欧州
2. アジア諸民族の交渉	2. 欧州社会の成立
3. アジア諸文化の興亜	3. 欧州の転換
4. アジア諸民族の活躍	4. 近世諸外国家の発達
5. 近世の東亜	5. 欧州の革新
	6. 欧州の世界政策

しかし、このような東・西洋史は日本史を念頭に教えられていた。

『中等歴史1』の序説である「皇国と東亜及び世界」には次のように学習目標と方向が提示されている。

「東亜及び世界」の歴史は、これを東西の二つの部分に分けて、まず前編で皇国以外の大東亜の歴史を学び、次の後編では主に欧米の歴史を学ぶ。さらに両者を密接な関連に基づいて学習する際、東亜の過去と現在は世界の歴史の中で的確に把握され、皇国進展の背景や鮮明さを得ることができる。皇国民は東亜及び世界の歴史を学ぶ時、常にこの学習目的を忘れてはならない³。

これにより、東・西洋史を扱う学習目標が「皇国進展」、すなわち大東亜戦争の背景とその当為性を知ることにあることが確認できる。ここでいう皇国には朝鮮史も含まれる。

歴史教科のこのような三分主義は解放後もそのまま続いた。教授要目以前の緊急措置時期(朴

³ 文部省, □中等歴史1□, 中等學校教科書株式會社, 昭和19年(1944) 8月 13日, 4～9頁.

正統政權期の1972年に改正された憲法（維新憲法）により、大統領に絶大な権限が与えられた）に著された金庠基・金一出・金聖七の『新東洋史』（1948）は、そのような東アジア史の構成をよく示している。冒頭において、叙事・構成に関して次のように提示している。

国史に関する事実はできるだけ相互関係で詳しく叙述し、国史と東洋史の関連性を明らかにしようと努力した。

ところが、ここでいう東洋史で日本史は除外されている。東洋史の意義及び範囲を以下のように設定している。

東洋史というのは私たちの隣国である中国を中心に、政治的に、文化的に密接な関係を持つ諸外国と民族の興亡から明らかにするものだ。（国史に関する事実は、ただし隣国と関連を持つものに限り取り上げる）

そして東洋史の地理的範囲は大概時代に沿って広がっていくので、一律的に取り上げ難いが、概ねインドから中央アジア東南部に至る線を基準として、その東側に延びている大陸一帯と太平洋方面に散在している色々な島国をこの範囲に入れることができるのだ⁴。

次例を見ると、東洋史教科書であるにもかかわらず、中国史一色で構成されている。そして近代に入ってフランスのベトナム侵略、インドとベトナムの独立運動を叙述している。ただし、日本は「アメリカと日本」「清日戦争」「日露戦争」で簡略に記述されている。また、明朝末期の北虜倭乱に言及し、「東洋の倭乱」という小主題の単元で倭寇と豊臣秀吉を東洋の三国を揺るがした張本人として叙述している。日本の前近代を含む通史というよりは、日本の侵略に焦点を当て、韓日関係史のレベルで叙述しているのである。解放後の脱植民地化の課題の中で歴史学界が大韓民国政府樹立を控え、日本帝国が自らを東洋平和の守護者として作り出した枠組みを破り、日本について東洋平和を破った張本人として記述することにより、歴史叙事の逆転を示している。一方、1948年8月15日、大韓民国政府樹立直後の10月、崔南善が著した「中等国史」、「朝鮮本位中等東洋史」などが李光洙の「文章読本」と共に文教部から使用禁止処分を受けた⁵。

もちろん、中国中心の歴史叙述に対する問題意識がなかったわけではない⁶。1949年に出版された『隣国の生活:歴史』の場合、中国の相対化が目立った⁷。しかし、脱植民という緊急課題のもとで、日本史の比重を高めることはできなかった。

中学校の場合、1年生は「隣国（東洋史）」、2年生は「遠い国（西洋史）」、3年生から「わが国

⁴ 金庠基・金一出・金聖七, 『新東洋史』, 同志社, 1948, 1頁。

⁵ 「문교부, 전국중등학교 교장회의에서 친일파 교과서 사용금지 등을 지시」, 『조선일보』 1948.10.12.

: 「教科書와 風紀取締 등 學制最後決定」, 『朝鮮日報』 1948.10.12.

⁶ 孫晋泰・李海南, 『이웃나라 생활(역사부문)』, 탐구당, 1952, 冒頭。これに関して 유용태, 「한국의 동아시아사 인식과 구성: 동양사 연구 60년을 통해서 본 동아시아사」, 『역사교육』 107, 2008, 140~143頁.

⁷ 유용태, 前掲論文, 142~143頁

(国史)」を履修するようにした。ただし、この過程で日本史は徹底的に排除された。崔南善の「隣国歴史」は、中国史中心の歴史書に他ならなかった。解放直前の東洋史が日本中心の東洋史だったとすれば、今は中国中心の東洋史に変換したのである。すなわち、日本中心の序列型連帯論に基づく東洋史から、今は中国中心の序列型文化論に基づく東洋史へと変わった⁸。さらに東洋史は高級公務員試験と大学予備試験の筆記試験の選択科目として西洋史と共に試験科目に含まれた⁹。

1945年8月までの日本史、東洋史、西洋史という日帝の歴史教育の既存の三分主義を受け継ぎ¹⁰、日本が主流だった既存の歴史書の構成から日本を脱落させ、そこに韓国史を代入・配置しただけでなく、東洋平和言説を被侵略者の立場から再確立したのである。その点で、このような叙事構成は日帝が主導した一国中心の歴史叙事を基軸に形成された三分主義が無意識的に継承された結果である。

3. 「中共」言説と二分主義構成の登場:1949~1964

1949年10月1日、中華人民共和国が建国した。この出来事は日帝の敗亡に劣らず、東アジア史と世界史に多大な影響を及ぼした事件だった。後日、第3次世界大戦を招きかねないいわゆる韓国戦争の起源がここから始まった。もちろん冷戦秩序の登場と深化がこのような戦争の勃発に影響を及ぼした。しかし、韓半島の分断と続く左右対立、そして中国の国共内戦と中国共産党の勝利は冷戦秩序の固着化以上に戦争に大きな影響を及ぼした。特に李承晩政権は、中国を韓国の北進統一を妨げた「中共傀儡」と呼んだ。反共主義と北進統一論に基づく「中共」言説である。

こうして韓国政府の支配層は中国に対する二重意識を堅持し始めた。現在、大陸を占領している「中共」に対しては反共主義に基づいて伝統の中国から分離し、台湾に対しては反共の堡壘として連帯する中で、台湾と伝統の中国を結び付けた。歴史叙事の再構成が空間と時間の分離だったわけである。そして現実に存在する中国大陸は歴史と分離したまま台湾として表象される東洋史の空間になっていった。

一方、1950年代に社会科学分野の自由主義系知識人たちが「人類文化」への貢献と「後進性の克服」を強調し始め主流へと浮上した。それは後進的な東洋が文明史的に先進的だった過去と現在の自由建設の中心といえる西洋に学ぶことで後進性を克服し自由主義を実現できるということである¹¹。社会学者の李相佰は、「西欧化が現代化」と主張するほどであった。もちろん、このような東洋論でも日本一国はやっと後進性を免れた国だと評価している¹²。このような議論はアジアの停滞性につながった。さらに経済学者の裴成龍は、ヴィットフォーゲル(Karl August Wittfogel)

⁸ 戦時体制期の知識人の東洋談論に関しては尹詳綯, 「1950년대 知識인들의 民族 談論 연구」, 서울대학교 국사학과 박사학위논문, 2013, 36~40頁を参照。

⁹ 「고시위원회, 국가 고등고시 실시에 따른 시행규칙을 마련」 『東亞日報』 1948. 10. 11.

¹⁰ 大韓帝国時期、政府は本国史と万国史という二分主義に則って歴史叙事を構成した。

¹¹ 윤상현, 前掲論文, 91頁。

¹² 윤상현, 前掲論文, 140~144頁。

の影響を受け、「中共」とソ連を東洋的専制政治と規定した。

そして歴史学者の金龍徳は、中国と同様に韓国もこのような国家権力の特性で市民階級が成長できず停滞したと主張した¹³。マルクス主義の影響を受けた経済史学者でさえ、アジア的生産様式論を受け入れていた¹⁴。その結果、このような東洋的停滞性論は脱植民地論に進むよりは、むしろ韓国改造の必要性（後進性）を力説するための修辭的方法的装置に過ぎなかった。もちろん、後日、中国史研究者の一部では伝統的な中国と現実の中国を連携させ、内在的力量を重視する流れも現れた¹⁵。彼らは中華人民共和国の樹立を近代化の失敗ではなく「中国的近代化」の実現と認識した。

また、このような流れから日本史の内在的な発展を重視することもあった¹⁶。しかし、東洋的専制主義理論が後進性理論と結合して広範囲にわたり影響を及ぼしていたため、このような傾向は「ティーカップの中の微風」に過ぎなかった。特に、自由党政権内部で全体主義的民族主義系列である民青系が排除され、主導権は欧州中心の歴史認識を堅持した自由主義系列に渡された¹⁷。このような政局の変動により西欧中心の歴史叙事が主流に浮上し、脱植民地の課題も民族問題の解決よりは経済成長・近代化に重点を置かれ始めた。

このように東洋に対する否定的な言説は、歴史叙事そのものの矛盾を内包しており、東洋史は1955年の中等学校教育課程で独自の教科書として存続できなくなった。もちろん、世界の歴史を統合的に学習してより幅広い歴史的見解を持つようにし、これを土台に我が国の歴史をもう少し客観化して深化、理解するようにしようとする意図によるものであったことは否めない¹⁸。

しかし、東洋史、すなわち中国史に対する偏見が強く作用した。歴史的文脈は異なるが、大韓帝国期の二分主義に戻ったのである。そのため、中国中心の東洋史は『世界史』に含まれた。さらに東洋史が世界史に編入されたことで西欧中心の観点が深まった¹⁹。もちろん、西欧中心観点は日本による植民地時代以来、堅持されてきた。しかし、植民地時代は日本史中心の東洋史が一方で存続したため、西欧中心の歴史教育を牽制することができた。しかし、東洋史が独自性を喪失したことで、西欧中心の歴史叙事構成が独占するに至った。

分量がそれを端的に示している。東洋史の分量は30%に過ぎないのに対し、西洋史の分量は70%を上回った。このような過度な不均衡は、世界の歴史を統合的に理解し、幅広い歴史的見解を保つという趣旨にも反する。

¹³ 金龍徳, 「국사의 기본성격-우리 사회의 정체성을 중심으로」, 『思想界』 1953年9月号、53頁。

¹⁴ 김용섭, 『역사의 오솔길을 가면서-해방 세대 학자의 역사연구 역사강의』, 지식산업사, 2011, 98頁。

¹⁵ 정문상, 『중공, 자유중국 그리고 중국-냉전시기 한국인의 중국인식』, 혜안, 2019。

¹⁶ 전해중-민두기, 『일본사』, 1964。

¹⁷ 후지이 다케시, 「제1공화국의 지배 이데올로기-반공주의와 그 변용들」, 『역사비평』 83, 2008, 140~142頁。

¹⁸ 교육과정-교과서연구회編, 『한국교과교육과정의 변천—중학교』, 대한교과서주식회사, 1990, 96~97頁。

¹⁹ 남한호, 「제1차 교육과정 세계사 서술체제와 내용분석」, 『역사와교육』 22, 2016, 143~145頁。

したがって、西欧中心的観点に基づいた世界史において中国史は下位構成に組み込まれた。もちろん、日本史もこのような世界史叙事の下位に配置された。第1次教育課程の世界史構成における日本史関連の内容は以下の通りである。

3. アジア勢力の膨張とヨーロッパ社会の形成

- (1) イスラム世界はどのように成り立ったのか？
- (2) 唐、宋時代はどうだったのか？
- (3) モンゴルと日本はどのように発展したのか？

5. 近世東洋はどうだったのか？

- (1) 明、清の中国はどうだったのか？
- (2) 西南アジアの変動はどうだったのか？
- (3) 西洋勢力はどのようにアジアに侵入したのか？
- (4) 近世日本はどのように変遷したのか？
- (5) 東洋各国の相互関係はどうだったのか？

高校の場合も事情は同様であった。たとえ日本史の分量が中学校に比べ増えたとしても、西洋史中心の世界史の中で、中国史の下位範疇として断片的な時代概観が続いた²⁰。

それでも、このような自由主義は李承晩大統領の権威主義に対抗して 4・19 革命をもたらす知的基盤として作用した。ただし、それは後進性論に基づいていたため、韓日国交正常化を控えて再度提起された脱植民地の課題に能動的に対応できなかった。

一方、韓国史内部でも植民史観問題が本格化し始めた。従来、韓国の歴史は日本人学者たちの植民地史観として歪曲・解釈されたものが多かったという認識の下、1958 年末に李承晩大統領の指示で国史上の諸問題を検討し、○○○○が第1集から第6集まで発行された²¹。執筆は古代(檀君朝鮮～新羅)の李弘植、中世(高麗時代)の金庠基、近世前期(朝鮮太祖～宣祖)の申錫鎬、近世後期(光海君～哲宗)の李丙燾、最近世(高宗-8・15解放)の李瑄根である。植民地史観問題を初めて扱った一連の特集である。

しかし、李承晩政権が1960年の政・副大統領選挙を控え野党の言論を制限しようとして、1958年11月に改悪された国家保安法が国会に提出された状態だったという点を考慮すれば、李承晩大統領の植民史観への問題提起は危機局面を糊塗しようとする政治的な修辭に終わる可能性が高い。当時、野党を代弁した『京郷新聞』は同年12月21日付社説で、新国家保安法闘争について「日本統治の倭政植民政下においても我が民族の自由を回復するために」殺身自殺した愛國憂國之士に従って闘争することを力説した²²。結局、李承晩大統領のこのような提案は1950年代の

²⁰ 이해남, 『고등학교 사회과 세계사』, 1959, 탐구당 ; 김성근, 『고등 세계사』, 교육사, 1961.

²¹ 국사편찬위원회編, 『國史上의 諸問題』 1, 1959, 1~2頁.

²² 「사설 「마음의 조국」을 이 땅 위에 성취하자」, 『경향신문』 1958.12.21.

研究成果が乏しく、政治的な雑談に終わってしまった。それでも 1965 年の韓日国交正常化を前後してこの問題が再び浮上し始めた。

4. 韓日関係の新たな模索と韓国史の体系化問題:1965~1981

1965 年の韓日国交正常化は、韓国社会に大きな影響を及ぼした。当時、軍事政権は米国の支持を得て経済開発に必要な資金と技術を誘致することが急務であった。その頃、米国は北方社会主義圏に対抗する親米反共の防波堤を構築するという東北アジア地域の統合戦略を立て、強力な「韓日三角安保体制」を構築しようとした。そのためには韓国に強力な反共政府が必要であり、何より韓日国交正常化が必要だった。米国のこのような北東アジア政策によって日本は東北アジアでの地位が高まり、韓国戦争特需で稼いだ過剰資本を韓日国交正常化で解消することができた。また、軍事政権は米国の支持を得て、経済開発に投入する資金と技術を誘致する機会を得た。軍事政権のこのような対日政策は学界にも影響を及ぼした。

そうして、米国の第3世界への対外政策を支えるロストウの近代化論が大きく影響する一方²³、韓国史学界は韓日会談の前後に日本の再登場に警戒心を緩めなかった。1965 年 7 月 9 日、韓国史学会の代表幹事が中心となって韓日会談反対声明を発表した。それに続き、様々な歴史関連学会で韓日協定の調印を白紙に戻すことを政府に促した。韓日協定は互惠平等の原則に立っていないと釘を刺した²⁴。その結果、民族問題に対する認識が向上し、国文学、国史学の独自性に対する関心が高まった。当時、西洋史中心の世界文化史が大学の教養必修科目に指定され主流を占めている中で、韓国史研究者の養成が緊急課題として提起された。

特に、歴史教育の現場で第2次教育課程によって韓国史と世界史を合わせて教えることに対する反発も少なくなかった²⁵。統合社会の原理により、社会教科の中で国史と世界史を統合させただけでなく、世界史の分量を大幅に縮小したためである。特に西洋史中心の世界史が国史に加わる形であったため、中国史はもちろん、日本史もそのような影響を免れなかった。「近世世界の生活」は 60 ページに過ぎない中で、中国と日本はわずか 6 ページに過ぎなかった²⁶。その中では明の興亡、明の文化、清の統一観の発展、清の文化、インドの国内対立、日本の幕府政治、日本の明治維新が含まれた。

一方、韓国史学の主流が依然として植民地史観によって体系化されたという主張が相次いで提起された²⁷。そして 1967 年 12 月、韓国史研究会が発足した。その設立趣旨では「韓国史を科学

²³ 朴泰均, 「로스토우 제3세계 근대화론과 한국」, 『역사비평』 66, 2004, 156~159頁 ; Michael E. Latham, 권혁은 외, 『근대화라는 이데올로기』, 그린비, 2021, 95~97頁。

²⁴ 「역사연구 역사학회 한국사학회 비준반대성명」, 『동아일보』 1965.7.10.

²⁵ 康宇哲ほか, 「지상좌담 개정된 교육과정과 역사교육의 제문제」, 『역사교육』 9, 1966, 167~169 頁。

²⁶ 박성봉ほか, 『새로운 사회』, 홍지사, 1970.

²⁷ 金哲垓, 「국사교과서는 바뀌어야 한다」, 『새한신문』 1968.11.11.

的に研究し、これをさらに発展させることで韓国史の正しい体系を整え、同時に韓国史が世界史の一員としてその正当な位置を占めるようにすること」とうたわれている。²⁸。続いて1969年12

月、李基白、李佑成、韓祐勍、金容燮が文教部に「中・高等学校の国史教育改善のための基本方向」を研究報告書として提出し国史教育の改善を力説した²⁹。これは韓国史が世界史の下位範疇ではなく、独自分野としての自己への模索を始めたことを示している。そして西洋史中心・中国史副中心の世界史とともに独自の韓国史という両軸を中心に成立した。

しかし、歴史叙事の一軸を成した韓国史は1968年12月「国民教育顕彰」の宣布と1972年10月の維新体制の起点を前後に民族主体性の確立を掲げて変質し始めた。韓国史は社会科から独立したが、世界史は依然として社会科に編制された中で、韓国史は政権によって「強要された重視」を受け、国史と世界史の乖離が広がった³⁰。相互連携の余地がますます減ったわけである。

この過程で東洋史研究者を中心に批判の声が高まった。全海宗は、韓日国交正常化を控えて日本史に対する無知と破片化した認識を批判し、1964年に閔斗基とともに『日本史』を出版した。韓国人が初めて著した日本通史であった。全海宗は次のように出版の趣旨を明らかにしている。

古代以来、日本は我が国を通じて大陸の文化を受け入れた。日本との関係で、我々にとって何よりも重要だったのは、壬辰倭乱と韓日合邦以降の日本の植民地政策だろう。しかし、我々は今や苦い過去は過去に戻し、日本を隣国の友好国として新たな関係を築かなければならなくなった。

このように重要な日本の歴史について、我々が何を知っているかを自問する時、常識以上を知っていると答えることはできない。解放されて20年が過ぎたにもかかわらず、まだ日本史を一冊も出していないのは我々の史学界の恥ずかしいことだと言える。もちろん歴史書を著述することは容易なことではないが、日本史を知らなければならぬという意欲からこの本を編集するようになった。

最近、韓日国交の問題でいつにも増して日本への関心が高まっている。我々は読者に日本の様々な分野の姿を歴史的に見た上で正しい日本観を持ってもらいたいところだ³¹。

韓日国交正常化を控え植民史観の克服問題が提起されている中、隣国日本の歴史に対する理解が切実であることを力説している。時代区分は「古代日本」～「中世日本」～「近世日本」～「近代日本」～「現代日本」（第一次世界大戦から）で構成されている。日本内部の発展過程に立脚して時代を区分したものである。

さらに、全海宗は「主体性」と「民権性」に対する過度な強調を批判し、東洋史と国史の関連

²⁸ 韓國史研究會ホームページ <https://www.hanguksa.org/front/introduce/history/view?id=102&page=3>.

²⁹ 李基白・李佑成・韓祐勍・金容燮, 「중·고등학교 국사교육 개선을 위한 기본방향」, 1969, 문교부연구보고서, 4頁。

³⁰ 金泰雄, 「國史教育의 編制와 韓國近代史 探究」, 선인, 2014, 23~25頁。

³¹ 全海宗・閔斗基, 「日本史」, 知文閣, 1964, 1頁。

性を超え東洋史も一つの知識体系として成り立たなければならないと主張した³²。また、閔斗基の場合、東洋社会（中国の場合）の近代化が西欧的衝撃に受動的に引き込まれることで、伝統の断絶を招いた西欧化ではなく、紳士階層が西欧の衝撃と対決し、伝統に基づいて主体的に創造した自生的過程であると主張した³³。黄元九の場合、国家政策に呼応する、民族的感情を反映する東洋史学は望ましくなく、日本または中国を偏見なく見ることが出来る歴史家的主体性を強調した。しかし、多くの研究者が伝統の断絶ではなく自生的だということに疑問を示した³⁴。

したがって維新体制の下で、歴史叙事は世界史を中心に構成され、世界史は西洋史中心と中国史副中心に固着化した。特に韓国史は、「韓民族の主体的発展史」、「世界史レベルの認識による民族史的特性の把握」など、「民族史観教育」を目指す一般目標とは異なり、学年目標と単元目標では、国難克服の民族精神だけが重視された。そのため、中国史、日本史などの連携性は専ら戦争を題材に行われた³⁵。

5. 韓日歴史葛藤と民主化運動の連鎖：1982~2001

歴史叙事の二元的な構成は 1982 年、韓日間の歴史問題が起き、新しい局面を迎えた。1986 年 6 月、日本政府が発表した高等学校歴史教科書検定の結果と関連し、韓半島と中国への「侵略」を「進出」に、3・1 運動を「暴動」に書き変えるなど、表現が修正され、「3・1 運動による韓国人死者が 7,000 人」という部分も削除されたという内容が日本で報道された。

しかし、5・18 民主化運動を圧殺しながら政権を掌握した全斗煥政権としては、景気低迷で厳しい状況の中、日本の大規模投資を誘致するため、日本の教科書の歴史歪曲報道を統制した。それは何よりも日本から借款を持ち込まなければならなかったためであった。だが、日本政府は新軍事政権の希望とは異なり、全斗煥政権に「安保経済協力借款」を提供することはできないと通知し、状況が 180 度変わった。これに対し、新軍部政権は国民の反日感情をテコにし、日本の歴史教科書問題を全面化させた。7 月下旬から韓国は中国のマスコミとともに一斉に日本の歴史歪曲問題を批判し始めた。一方で日本政府は、歴史教科書検定は客観的かつ公正に行われ、検定結果が他国との友好関係を害するとは思わないという安易な態度を示した。さらに日本の国土庁長官が「内政干渉」と発言し、事態をさらに悪化させた。

結局、折に触れて到来した新冷戦体制によって、米国は韓日間のこのような葛藤が自国の東アジア政策にも悪影響を及ぼすと判断し、米レーガン政権の主導で日本政府は全斗煥政権との密室

³² 全海宗, 「동양사교육의 문제와 방향」, 『역사교육』 14, 1971.

³³ 민두기, 「두개의 중국론-역사적 배경과 문제의 초점」, 『세대』 4-7, 1966.7 ; 金衡鍾, 「故 閔斗基先生の 學問的業績」, 『東洋史學研究』 74, 2001 ; 정문상, 「'中共'과 '中國' 사이에서 -1950~1970년대 대중매체상의 중국 관계 논설을 통해 보는 한국인의 중국인식」, 『동북아역사논총』 33, 2011, 70頁.

³⁴ 「低邊이 없는 東洋史研究「反省과 課題」 심포지움에서」, 『京郷新聞』 1970.3.31.

³⁵ 「低邊이 없는 東洋史研究「反省과 課題」 심포지움에서」, 『京郷新聞』 1970.3.31.

での妥協を通じて 40 億ドルの借款を提示した。翌年 1 月、中曽根首相の訪問時にこの問題に決着をつけた³⁶。これに対し中曽根首相は訪韓中の大統領府での晩餐会（1983 年 1 月 11 日）で、韓日两国の間にかつて不幸な歴史があったのは事実であり、我々はこれを厳粛に受け止めなければならぬ」と述べた。そして全斗煥大統領が 1984 年 9 月、日本を訪問した際、中曽根首相は昼食会で、今世紀の一時期に日本が韓国と韓国国民に多大な苦難を与えたことについて深い遺憾を表し、将来このようなことがないよう固く決意する旨、表明した。新軍部政権としては所期の成果を収めたのである。

そして全斗煥政権は中国と違って、反日の旗印を克日の旗印に転換させ、独立記念館はそうして建設された。日本の歴史教科書歪曲と韓国民の反日感情を利用し、自らの政権基盤を強化することができた。日本政府も 1982 年 11 月、教科書検定基準に「近隣アジア諸国との近現代史を扱うに当たり、国際理解と国際協力の見地から必要な配慮をすること」という条項を追加した³⁷。

さらに新軍部政権は、このように所期の目的を達成するやいなや、日本歴史教科書糾弾討論会を主導した学生たちを反国家団体構成事件に絡めようとした³⁸。全斗煥政権が自らの正統性を批判する学生運動を壊滅に追い込もうとしたのだ。しかし、このような妥協は弥縫策に過ぎなかった。したがって、いつでも韓日間の歴史問題は再燃する余地があった。当時、韓国社会は全斗煥政権の弾圧の下で形式上の民主化も実現されていなかったため、国民の要求はまともに表現できなかった。ただし、その後、韓国と日本の間で歴史認識の相違を克服しようとする動きが出るきっかけにはなった。

特に 1988 年の盧泰愚政権の誕生は、以前の全斗煥政権とは多少異なる局面が見られた。すなわち、盧政権は新軍部勢力が基盤になっているが、1987 年 6 月の民主化運動で大統領直選制改憲を経て権力を掌握したため、形式上の民主主義への移行を拒否することができなかった。また、冷戦終結に支えられ韓日関係を新たに確立することができた。

1980 年代、それまで絶えず提起されてきた日本軍「慰安婦」問題が議論される頃、1990 年 6 月に日本政府が「日本軍は従軍慰安婦問題に関与しなかった」と発表すると、金学順(1924~1997)が 1991 年 8 月、女性誌ではなく、新聞やメディアを通じて日本軍慰安婦の実態を暴露した。慰安婦問題は私的な雑談から公共の記憶に浮上したのである。このような暴露は、韓国社会の民主化が相当水準で進められ、人権意識が向上したため可能になった。

これに対し日本政府も 1993 年、河野洋平官房長官の声明を通じて日本軍が日本軍「慰安婦」募集・配置・移送・管理などに直接・間接的に関与した事実を認めた。このため、金泳三政権は日本軍「慰安婦」の惨状を日本の教科書に記述することで、歴史の教訓にすべきだという考えを明らかにした。このような雰囲気の中で、1997 年から日本の全ての中学歴史教科書には 1~2 行ほど、日本軍「慰安婦」について記述されるようになった。

³⁶ 차미희, 『한국 중·고등학교의 국사교육-국사과 독립 시기(1974~1894)를 중심으로』, 교육과학사, 2011, 50~52 頁。

³⁷ 정재정, 『한일의 역사갈등과 역사대화』, 대한민국역사박물관, 2014, 49 頁。

³⁸ 徐京錫, 「1982 年 일본 교과서 四科 공개 토론회를 돌아보며」, 『歴史科 60 年史』(서울대학교 사범대학 역사과編), 2007.

もちろん、日本の保守右派勢力は日本軍「慰安婦」の扱いに対し猛烈に反発した。『新しい歴史教科書』はそのように誕生し、韓日間の歴史問題を再燃させる火種となった。それでも 2001 年 10 月 15 日、韓国政府と日本政府は歴史問題に対応する方案の一つとして「韓日歴史共同研究委員会」を設置・運営することに合意した。2002 年のサッカー W 杯韓日共同開催を控えた時点であった。

6. 韓国の政治的民主化の道程と『東アジア史』の誕生:2002~現在

1998 年に金泳三政権が幕を下ろし、金大中政権が発足することにより、南北関係が改善され、韓日関係も新しい局面を迎えた。特に 1998 年、金大中大統領と小渕恵三首相が共に発表した「金大中-小渕宣言」は「21 世紀新しい韓日パートナーシップ共同宣言」として 1965 年の韓日関係正常化以後、両国関係を一段と発展させた画期的宣言と評価される。小渕首相は日本の植民地支配で韓国国民に大きな苦痛を与えた事実を受け入れ、「痛切な反省と心からの謝罪」をした。韓日外交史上初めて、歴史に対する日本の反省と謝罪が公式合意文書に明示された。韓国政府はこの宣言を受け、日本の大衆文化の開放に踏み切った。日本映画が輸入されたのもこの時からである。

これに歩調を合わせ、韓日歴史共同委員会は両者間の違いを認識し、相互理解できる論点を絞っていった。特に、自国史を相対化して把握する問題を議論するレベルを越え、韓国と中国、日本で構成される東アジアの歴史を媒介にして自国史と世界史を連結させるレベルへと進んだ³⁹。その結果、中国と日本もこのような方向に進めば、共有できる幅が広がるだろうという展望を持つに至った。歴史叙事の再構成問題が前面に浮上したわけである。

その結果、2005 年に韓日中共同の東アジア近現代史が誕生した⁴⁰。韓中日 3 カ国が共同で企画・執筆し、同時に出版する初の東アジア共同の歴史教材である。日本の歴史教科書歪曲に反対する各国の学者、教師、市民運動家らが 4 年間、膝を突き合わせて単語と文章を綿密に検討し著述したこの本は、19 世紀中頃以降、侵略と戦争で染まってきた過去の歴史を深く反省し、平和と人権、民主主義が保障される東アジアの未来を目指す内容になっている。

さらに偏狭な国粹主義から脱皮し、20 世紀の侵略と抵抗の歴史に対する東アジア共同の認識を生み出そうとした点が特徴である。特に 1930 年代に日本が東アジアで起こした戦争を扱う章の題名を「日本民衆の加害と被害」、「日本の侵略戦争敗北」などと表記し、このような見地で一貫して歴史を叙述した点が目立つ。終章「東アジアの平和な未来のために」も注目に値する。この章では各国の歴史清算問題、日本軍「慰安婦」問題、日本の政治指導者の靖国神社参拝問題と歴史教科書歪曲問題などを正面から取り上げている。

一方、2003 年に中国のいわゆる「東北工程」(訳注:中国が朝鮮半島北部及び東北地域にあっ

³⁹ 趙光, 『韓國國史學史의 認識과 課題』, 景仁文化社, 2010, 281~283쪽; 정재정, 前掲書, 132~133頁

⁴⁰ 한중일3국공동역사편찬위원회, 『미래를 여는 역사 : 한중일이 함께 만든 동아시아 3국의 근현대사』, 한겨레출판, 2005.

た国家の歴史を中国史として編入しようとした政策)をめぐる論争が広がった。2004年、韓国政府が中国政府に公式抗議したが、中国は東北工程を中断せず、むしろその成果物の大衆化に拍車をかけた⁴¹。これに対し、韓国政府は2004年3月、高句麗研究財団を設立した。

こうした一連の葛藤は韓日、韓中の関係を越え、東アジア史全体に拡大する結果をもたらした。特に韓国と日本の市民団体が中心となり、自国中心の民族主義的観点から平和と共存という普遍的価値を志向し、議論の外延が広がった。その結果、日本では歴史歪曲教科書の代表として知られた扶桑社教科書の採択率が著しく低くなり、韓国では東アジア史教科書の制作が教育課程改正の中心的なテーマとして浮上した⁴²。

さらに、盧武鉉政権下でいわゆる「東北アジアバランス」 という概念が提示された。つまり東北アジアを中心に「平和と繁栄の共同体」へと発展していき、その先導的役割を韓国が果たすものの、不安定かつ不透明なこの地域の葛藤を和解へ、対立を協力へ転化させる過程での韓国の主体的役割を強調したのである。また、脱国家主義に立脚した東アジア言説もともに提示され新たな局面を迎えた⁴³。

また学界でも東アジア史叙述の方法と認識の問題で多くの進展が見られた。1990年代の脱冷戦とポストモダニズムの登場で、国家と民族を越え、ヨーロッパ中心の世界史を相対化させ、省察できる方法及び範疇としての地域史が注目され始めた。東アジア史という地域史が、自国史と世界史の間に位置する中間単位の歴史的思考体系として両者を緊密に結びつけ疎通させることができるかと判断したためである⁴⁴。

このような進展は、韓国社会が形式では民主主義を成し遂げ、経済力と軍事力が相当なレベルに達したため、可能になった。特に1965年の韓日国交正常化の時とは異なり、植民地史観を克服するほどの研究の力量が蓄積され、日中の歴史歪曲に対応できたためである。すなわち民主化、経済力、研究成果がこのような東アジア教科書を誕生させた主要因だと言える。このように2007教育課程で東アジア3カ国のうち高校で初めて学習する「東アジア史」科目が誕生した。それは第1次教育課程を経て、いわゆる韓国史-世界史という二分主義が解体され、今や再び三分主義に回帰したことを示している。

しかし、そのような三分主義は民主化の課程で堅持されていた三分主義とは違った。すなわち、後者が既存の植民地史観から脱皮できなかった韓国史、ヨーロッパ中心の西洋史、中国中心の東洋史だったとすれば、前者は植民地史観から脱皮した韓国史、交流と交易中心の世界史、東アジア3国の連携性が強化された東アジア史として確立された。その結果、「東アジア史」科目の教育目標は「東アジア地域で展開された人間活動とそれが残した文化遺産を歴史的に把握し、この地域に対する理解を深め、ひいては地域の共同発展と平和を追求する眼目と姿勢を育む」ことであ

⁴¹ 동북아역사재단, 『갈등을 넘어 화해로』, 2006, 34~39頁。

⁴² 지모선, 「〈동아시아사〉 과목의 신설과 교육과정 개발」, 『역사교육』 128, 2013, 72~73頁。

⁴³ 한국동북아지식인연대編, 『동북아공동체를 향하여』, 동아일보사, 2004。

⁴⁴ 白永瑞, 「자국사와 지역사의 소통: 동아시아인의 역사서술의 성향」, 『역사학보』 196, 2007, 105~106頁; 柳鏞泰, 『동아시아사를 보는 눈』, 서울대학교출판문화원, 2017, 68~76頁。

る。特に先史時代から現代まで東アジア人が成し遂げた文化の共通性と相関性を探求し、東アジア地域の発展と平和の定着に能動的に参加できる資質を養うことに主眼が置かれた。もちろん、このような構成方式の世界史教育と東アジア史教育の志向と実際の適用の乖離に対する批判も少なくはない⁴⁵。

それでも韓国の「東アジア史」教科書の出版の前後に、韓国はもちろん中国、日本でも学界と歴史教育の現場レベルでこのような地域史の方法論に基づいて著された多数の東アジア史・韓日関係史の概説書・教材が相次いだ⁴⁶。このような努力は、韓中日三国の歴史叙事の構成から持続的かつ意味のある変化を導き出す基盤になるだろうとみられる。

7. 結語

現在韓国では、新自由主義の潮流の中で、教育課程が市場の需要によって激しく揺れ動いており、教科目がこれによって明滅するため、「東アジア史」教科書の運命は不透明である。何より、「東アジア史」は「世界史」と共に、学習に投入した時間に比べ、点数が最も低い入試科目としてみなされているため、学生たちから選択されない。これは韓中日三国の将来に暗雲を落とすと言える。相互理解が持続できる制度が確保・維持されない限り、葛藤を越え和解へと進むことは困難である。

何よりも国家間対話を通じた解決が難しい中で、政治が相互理解の幅を広げるどころか狭小になる昨今の事態は非常に憂慮すべきである。したがって、政治的荒波に巻き込まれることなく、近代世界及びグローバル化した世界を主体的に解釈し、相手の歴史を理解するためには、歴史叙事を再構成する作業がそれぞれの国の学界と学界、教育現場と教育現場、市民団体と市民団体の会合と交流、共有を通じて持続的に維持・拡散させる必要がある。そのような努力だけが新しい対話のための踏み台になれるためである⁴⁷。

⁴⁵ 梁豪煥, 「세계사교육 : 변화의 담론과 교과서 서술의 현실」, 『역사교육』 140, 2016; 柳鏞泰, 「동아시아사와 세계사, 왜 무엇을 가르치나? - '농업 패싱'의 교류사를 묻는다」, 『역사교육』 164, 2022.

⁴⁶ 最近の代表的な成果としては吳炳守編, 『한중 역사교과서 대화 : 근대의 서사와 이데올로기』, 동북아역사재단, 2021; 전국역사교사모임·한국 | 역사교육자협의회·일본, 『마주보는 역사수업: 한일 교사들의 연대와 교류의 기록』, 휴머니스트, 2023が挙げられる。

⁴⁷ 곤도 다카히로, 박경희 옮김, 『역사교과서의 대화』, 역사비평사, 2006, 7~11頁。

■金 泰雄 (KIM, Taewoong)

1984年、ソウル大師範大学歴史教育科卒業。1990年同大学大学院国史学科修士、1997年同大学大学院博士。文学博士。現職はソウル大師範大学歴史教育科教授、専門分野は韓国近代史、韓国社会経済史。

主な著作：『뿌리 깊은 한국사 샘이 깊은 이야기 6—근대편 (根の深い韓国史 泉の深い物語 6—近代編)』(솔, 2003)。『한국근대 지방재정 연구 (韓国近代における地方財政の研究)』(아카넷, 2012)。『대한제국과 3·1 운동 (大韓帝国 と 3・1運動)』(휴머니스트, 2022)。